学術事業報告
学発番号: 第13-051 号
研修会　　臨床化学免疫血清分野　研修会
日　時:　　2013年11月26日(火)18:30～20:30
場　所:　　京都保健衛生専門学校 視聴覚室
主 題1:　　「酵素法によるHbA1cの測定について」
講 師1:　　近藤 大 氏（協和メデックス株式会社　営業支援部）
主 題2:　　「糖尿病診療におけるグリコアルブミンの有用性について」
講 師2:　　松前 菜津美 氏（協和メデックス株式会社　営業支援部）
参加数:　　総人数16人(正会員11人)

報告者:　　後藤　直樹（京都保健衛生専門学校）

以下、講演内容など
今回は「血糖コントロールマーカーの最近の話題」と題して、協和メディックス社の2名の講師に講演していただきました。血糖コントロールマーカーは、グルコース、HbA1c、グリコアルブミン、1,5-AGなどがある。グルコースは採血時、HbA1cは6～8週間前からの平均血糖値、グリコアルブミンは1～2週間前からの平均血糖値を反映するとされている。臨床では糖尿病の診断項目となっているHbA1cが重要視されているが、測定方法は複数存在し、HPLC法が主流の中、最近では免疫比濁法、酵素法も開発され普及しつつある。今回はその酵素法について講演いただきました。酵素法はHPLC法と比較し、HbA1c以外の項目は測定できないが、汎用自動分析装置での適応が可能となっている。測定系もH_2O_2-POD発色系にて測定でき、基礎性能も良好であり、有用性の高い試薬ということでした。
HbA1cは貧血の影響がり、貧血傾向のある場合、実際の血糖値を反映しきれず、低値となるが、グリコアルブミンはその影響を受けない利点がある。また、血糖値を反映する期間もHbA1cと比べ短い為、最近の血糖コントロール状態を見ることにも使われる。